

～被災石碑は何を語っているか～

平成27年度地域政策研究センター(教員提案型・前期)

課題名 : 山田町における被災信仰石造物調査結果の可視化およびその成果公開に向けての研究
研究代表者 : 盛岡短期大学部 教授 松本博明
課題提案者 : 山田町教育委員会・松本博明・岩手歴史民俗ネットワーク
研究メンバー : 八木光則(岩手大学)・鳥取玖美(盛岡市)
キーワード : 震災復興・文化復興

▼研究の概要(背景・目標)

山田町をはじめとした沿岸市町村の石碑は地域の古文書、歴史書としての役割を担うとともに、歴史を共有する地域コミュニティの精神的核としても機能してきた。しかし今回の津波によりその多くが被災し、転倒あるいは流出した。こうした被災石碑を悉皆調査しデータ化するのが目的である。

▼研究の内容(方法・経過)

調査においては、山田町教育委員会を主体とし、研究代表者を中心とした調査チーム(4名)を組織、其の4名については残った1割の信仰石造物の補足調査に携わる。また、山田町教委の担当者と山田史談会のメンバーとがその調査研究に現地スタッフとして協力、調査を円滑に進めるようにする。

▼研究の成果(結論・考察)

町内の被災石碑の全容が次第に明らかになっていった。被災した石碑は次頁表を参照していただくことになるが、山田町全体で127基、横転折損が77基、不明が14基、と津波による被害が91基に登ることが確認された。悉皆調査によって明らかになった山田町の現存石碑の全体像は上の表のとおりである。全てデータベース化しており、そこから分析が可能な状態にしてある。



被災石碑



再建された石碑

山田町石碑調査集計表

地区	山田町史	岩手の石碑	2012～2015年調査							
			石碑確認済		石碑未確認	被災石碑	尊像	社	古墓	墓石
豊間根	287	120	340	(78)	59	26	12	19	16	11
大沢	40	16	55	(18)	1	13	2	12	3	0
山田	100	32	132	(24)	14	28	1	2	1	0
織笠	67	34	89	(27)	11	23	10	8	10	3
船越	84	82	137	(61)	10	38	15	15	21	16
計	578	284	753	(208)	95	128	40	56	51	30

▼おわりに(まとめ・今後の展開)

調査成果をトレース(山田町の町民あるいは盛岡にて経験者に研究協力者として委嘱)最終的には、本調査の成果を冊子化し、全世帯に配布、活用してもらうことを企図している。また、冊子体以外のメディアでの公開も計画する。平成27年度も町内において報告会を実施、復興に関わって文化的資源の保存、調査、活用の重要性を町民に理解してもらうとともに、今後町民を主体とする調査団体、伝承母体が再組織されることを目途とする。